



㊦ 釈迦涅槃図絵
㊧ 釈迦十六善神図絵



大般若経祈祷 宝印版木

明治5年の第一巻
読み上げの記録



■ 郷土史年表

西 暦	和 暦	郷土・日本のできごと
806	大同 元	弥尼布理神社創建
1293	永仁 元	大徳寺(浄光寺)創建
1397	応永 4	宝幢院大般若経写経の完成
	〃	〃
1457	康正 3	黒田城(川瀬城)築城
1467	応仁 元	応仁の乱・戦国時代始まる
1489	長享 3	大般若経祈祷宝印版木作られる 世だめし粥占い始まる
1490	延徳 2	銀閣寺創建

会 場

北黒田公民館
三重県津市河芸町北黒田43-1

開催日時

毎年 2月14日の直前の日曜日
午前8時から9時30分

アクセス

国道23号中瀬交差点から
国道306号を西へ1.7km
中勢バイパス北黒田北交差点から
国道306号を南へ900m

■ 参考文献

- 「河芸町郷土史」昭和53年刊 河芸町郷土研究会
- 「大はんにゃ」平成2年刊 岡 正美 著
- 「かわげの伝承」平成6年刊 河芸町教育委員会
- 「まちの文化財」平成6年刊 河芸町教育委員会
- 「河芸町史」平成13年刊 河芸町史編さん委員会

平成28年1月作成

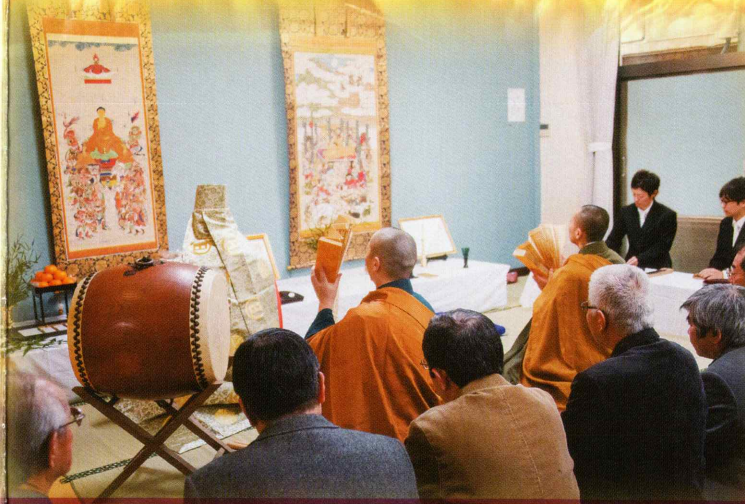
津市指定無形民俗文化財

大般若経転読

(大はんにゃ)

世だめし粥占い

北黒田世だめし粥占い保存会



1 世だめし粥占いの由来

この世だめし粥占いの祈祷は、大般若経の読経祈祷によって、その年の豊作を占い、併せて家族の無病息災を祈願する行事である。室町時代から続いており、毎年北黒田全戸が参加して行われる。

保管の文書や伝承によると、北黒田に真言宗の宝幢院という寺院があり、この寺の住職頼恵和尚が応永3年(1396)に「この里が繁栄し、五穀が豊かに実って、人々が幸せに暮らせるように大般若経を写経し、毎年読経祈願しよう」と、全部で六百巻もある大般若経の写経を始めた。

翌年の6月に第六百巻目の写経を終えたが、体力を消耗し精も根もつきた頼恵和尚は、視力が急に衰えついに盲目になってしまったと伝えられている。

その後、写経した大般若経六百巻は、年月を経て津藩主藤堂公に献納され、後に四天王寺に納められた。これが、大般若経の転読と四天王寺の住職を迎える所以である。

宝幢院は、弥尼布理神社の神宮寺で、藤堂家の祈願所であったが、明治維新後に廃絶した。黒田小学校の敷地内にあったが、現在は北黒田の西方に墓所が残されている。

この大事業に感謝し和尚の遺徳を偲んで、北黒田の住民は、長享年間(1487~1489)より大般若経読経による祈祷をはじめたのである。

現存する祈祷札の版木に、「長享三己酉年正月十一日」と刻字されているのがこれを物語っている。



黒田小学校の宝幢院跡

現在の宝幢院墓所



また、黒田は農耕に適した土地であり、田畑の作物によって生計を左右されることが多かったので、仏に祈り作物の豊凶を仏意に問うという占いの行事をしたのである。

この行事は「世だめし粥占い」といわれ、通称「大はんじゃ」と呼ばれている。長享年間から今日まで約500年余り住民の手で滞りなく伝承されてきたのである。

同様の行事は各地の神社で行われているが、仏式で行うのは極めて珍しいとされている。

2 粥占いの概要

- ① 毎年2月14日(平成24年からは直前の日曜日)の前日の午後から、用意した3本の竹筒を入れて粥を炊き始める。竹筒は長さ10cm程度の小指大の丸竹を2つ割りにし、それを早生、中生、晩生の印をつけて藁で結ぶ。



竹筒に入った粥粒

- ② 当日の8時頃から四天王寺の住職を迎え、大般若経の転読祈祷が行われる。正面左に釈迦十六善神図絵、右に釈迦涅槃図絵の掛け軸を掛け、粥

の中から取り出した3本の竹筒と版木で刷った祈祷札を供える。

- ③ 祈祷が終わったら、供えられた3本の竹筒が割られ、粥粒がどれだけ入っているかをみる。多く入っていた竹筒の品種が、今年の収穫の多いものであると占うのである。
- ④ 五穀豊穰、村落繁栄、家内安全の祈祷札は、正装した役男二人が全戸へ配布し、各家庭では玄関などに貼ったりしている。
- ⑤ 明治の初めごろまでは、この竹筒に麦・綿・米と書かれていたようで、このうちのどれが豊作であるかが占われていたが、米作り中心の農業になってからは、米の三種類に限られるようになった。現在は、「黒田米」として好評である。
- ⑥ 大般若経は、毎年十巻ずつ転読するので、60年で全巻の転読が完了する。

3 運営

- ① 粥占いの行事は、北出、田中、西之庄、宮谷の順に、毎年輪番制で行い、当番同行の組長、当番宿が中心となって同行全員の協力のもと運営されている。
- ② 従来は、当番宿の自宅において執り行われてきたが、近年は公民館にて実施されており、地域の子どもたちへの伝承も行われている。



世だめし粥占いの行事